

# H30学力向上アクションプラン(国東市)

## 目標及び指標

【目標】	
1 小学校・中学校ともに、国東市学力調査力において、全国平均以上(偏差値50以上)の項目を小学校20/30項目、中学校17/20を達成する。 2 小学校・中学校ともに、すべての教科・項目において、全国平均以上の学力を保障する。(全国・県・市学力調査において)	
達成指標	取組指標
1国東市学力調査において小学校は、20/30中学校は、17/20項目を達成する。 【H29小学校 17/30 中学校 14/20】  2全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査において、小学校・中学校ともに全教科(知識・活用)全国平均を上回る。 小学校【H29全国学力調査:0項目/4項目】 【H29大分県学力調査:5項目/6項目】 中学校【H29全国学力調査:1項目/4項目】 【H29大分県学力調査:8項目/10項目】  全国学力・学習状況調査、大分県学力定着状況調査において、全教科(知識・活用)全国平均を上回る学校の割合を以下のとおりとする。 小学校:6校/11校 【H29国東市学力調査:1校/11校】 【H29全国学力調査:4校/11校】 【H29大分県学力調査:3校/11校】 中学校:2校/4校 【H29国東市学力調査:0校/4校】 【H29全国学力調査:2校/4校】 【H29大分県学力調査:0校/4校】	1 年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、要請訪問時にもその点について点検し、取組の徹底を図る。  2 管理職授業研究協議会を年間5回実施し、管理職の指導力を向上させ、校内における授業改善の日常化を強化する。  3 小学校外国語教育の研修を全5コース設定し、すべての小学校教諭がそのいずれかを選択し、研修を行うことで、指導力向上を図る。  4 学力向上支援教員をより一層活用し、所属校での活用はもとより、校内研修に必ず招聘し、研修の講師を務める等、従前より指導的な役割を与える。  5 教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。  6 教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。

## 行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
- 年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、要請訪問時にもその点について点検し、取組の徹底を図る。【新規】
  - ア 具体的な評価規準の設定とその達成を図るための「教材・めあて・課題・まとめ・振り返り」の質の向上
  - イ 校内研や教科部会の中で、「個に応じた指導の手引き」や「授業のユニバーサルデザイン」等を参考にし、授業づくりの工夫及び個に応じた指導に取り組み、授業改善を図る。
  - ウ 定期考査及び単元テストにおいて、活用問題を出題するとともに、テストで問うことを念頭に授業改善を図る。
  - 管理職授業研究協議会を年間5回実施し、管理職の指導力を向上させ、校内における授業改善の日常化を強化する。【新規】
  - 学力向上支援教員をより一層活用し、所属校での活用はもとより、校内研修に必ず招聘し、研修の講師を務める等、従前より指導的な役割を与える。【新規】
  - 教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。【継続】
  - 教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。【継続】
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
- 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
  - ア 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業を充実させるとともに、習熟度別指導を積極的に導入する。【継続】
  - イ 教科の壁を越え、全ての教科に共通した授業改善の取組内容を設定し、その視点に基づく互見授業・授業研究を実施する。【継続】
  - ウ 管理職授業研究協議会を実施し、県・市の重点事項の共有や指導事項の共有を行い指導力の向上を図り、校内での授業参観後の指導や校内研修での指導に生かす。【新規】
  - 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
  - ア くにさき地区教育研究会の教科部会を年間4回実施し、児童生徒の課題解決のための研究を進めたり、授業研究会を実施したりして、教科指導力の向上を図る。【継続】
  - イ 国東市中学校教科指導力向上協議会を年間3回以上実施し、活用問題の交流をしたり、先輩が後輩に対して効果的な指導方法等を引き継いだりして、教科指導力の向上を図る。【継続】
  - 「生徒と共に創る授業」の推進
  - ア 毎学期末に生徒による授業アンケートを実施し、生徒の声を授業に反映させる。【継続】
  - イ 市内統一の授業アンケート10項目に加え、各中学校の生徒の実態により授業改善5点セットの検証指標等の内容を加えて授業アンケートを実施する。【継続】
  - ウ 学校が目指す授業像を生徒と共有し、それに向かう学習集団としての目標を設定させ、適宜振り返り活動を行う。【継続】
  - その他
  - 総合的な学習の時間に、世界農業遺産について探求的・協働的に学習しふるさとのおもしろさに触れ、「教育の里づくりの集い」において学んだことを発信する機会を設け、思考力・判断力・表現力を育む取組とする。【継続】
- ③新学習指導要領の実施に関して
- 小学校外国語教育の対応について
  - ・研究指定校を1校選定し、市内に先駆けた取り組みを行い、年間1回の公開授業を行う。(2カ年)
  - ・年度内にすべての小学校教員が、以下のいずれかの研修を選択し、指導力の向上を図る。
  - ア 市教委主催外国語教育研修会(年1回)
  - イ 研究指定校による公開授業及び研修会(年1回)  
中学校学力向上支援教員公開授業及び研修会(年3回のうちの1回をこれにあてる)  
※この2つの研修については、各学校1名以上参加
  - ウ くにさき地区教育研究会主催公開授業(年1回)
  - エ 市外の研究指定校等の公開授業
  - オ 県及び県教育センターが主催する研修会
  - 地域とともにある学校づくり
  - 平成31年4月に新たに国東町内5校及び国見町内の4校の小中学校をCSに指定する。(15校/15校)30年度は、研修や視察を行い、31年度のスタートに備える。
  - 市町村独自の人的・物的支援計画
  - ・特別支援教育支援員 28名(未確定)
  - ・学習支援教員(市費雇用教員) 8名(未確定)
  - ・学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員支援金～1名につき20,000円
  - ・学力向上・校内研究費～各校30,000円
  - ・国東市学力調査及びWeb評価支援システム
  - ・eライブラリ～ドリル・解説教材・ライブラリ・オリジナル教材作成ツール  
プリント教材・全国入試問題(問題データベース)・家庭学習サービス
  - ・Hyper-QU～全中学生、全小学5・6年生に実施
  - ・タブレット型パソコン、ワイヤレスディスプレイアダプタ、プロジェクタ、ルータ等導入(29年度)
  - ・コンピュータールーム全台+学級数分